

平成29年度(第61回)岩手県教育研究発表会
いきる・かかわる・そなえる 分科会

郷土を愛し復興・発展を支える人づくり

～「いきる」「かかわる」「そなえる」の実践を通して～

平成30年2月9日(金)

宮古市立藤原小学校

教諭 中込 正治

藤原小学校学区の概況

閉伊川

小山田地区

藤原小学校

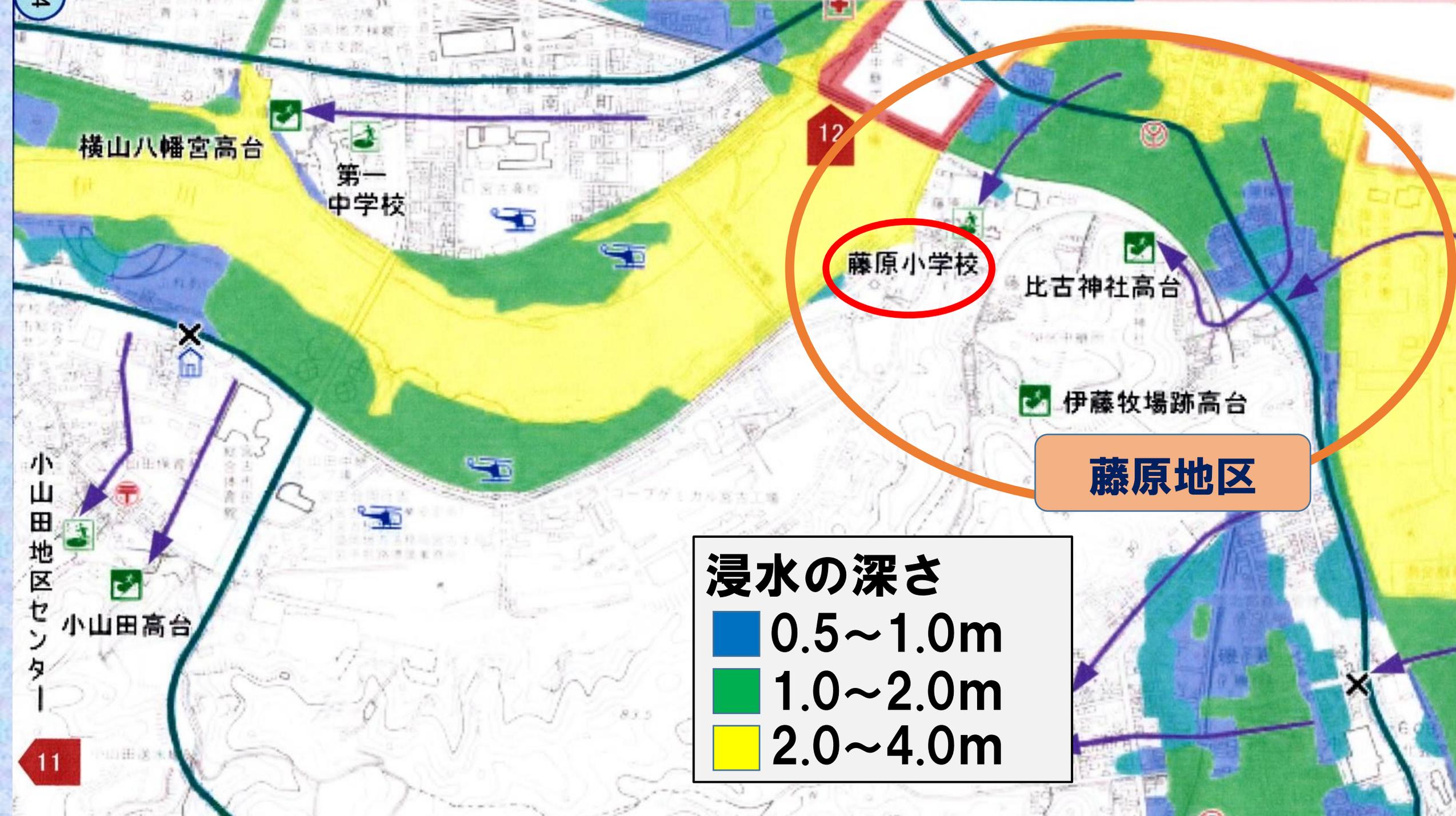
藤原地区

宮古湾



藤原小学校学区の概況





横山八幡宮高台

第一
中学校

12

藤原小学校

比古神社高台

伊藤牧場跡高台

藤原地区

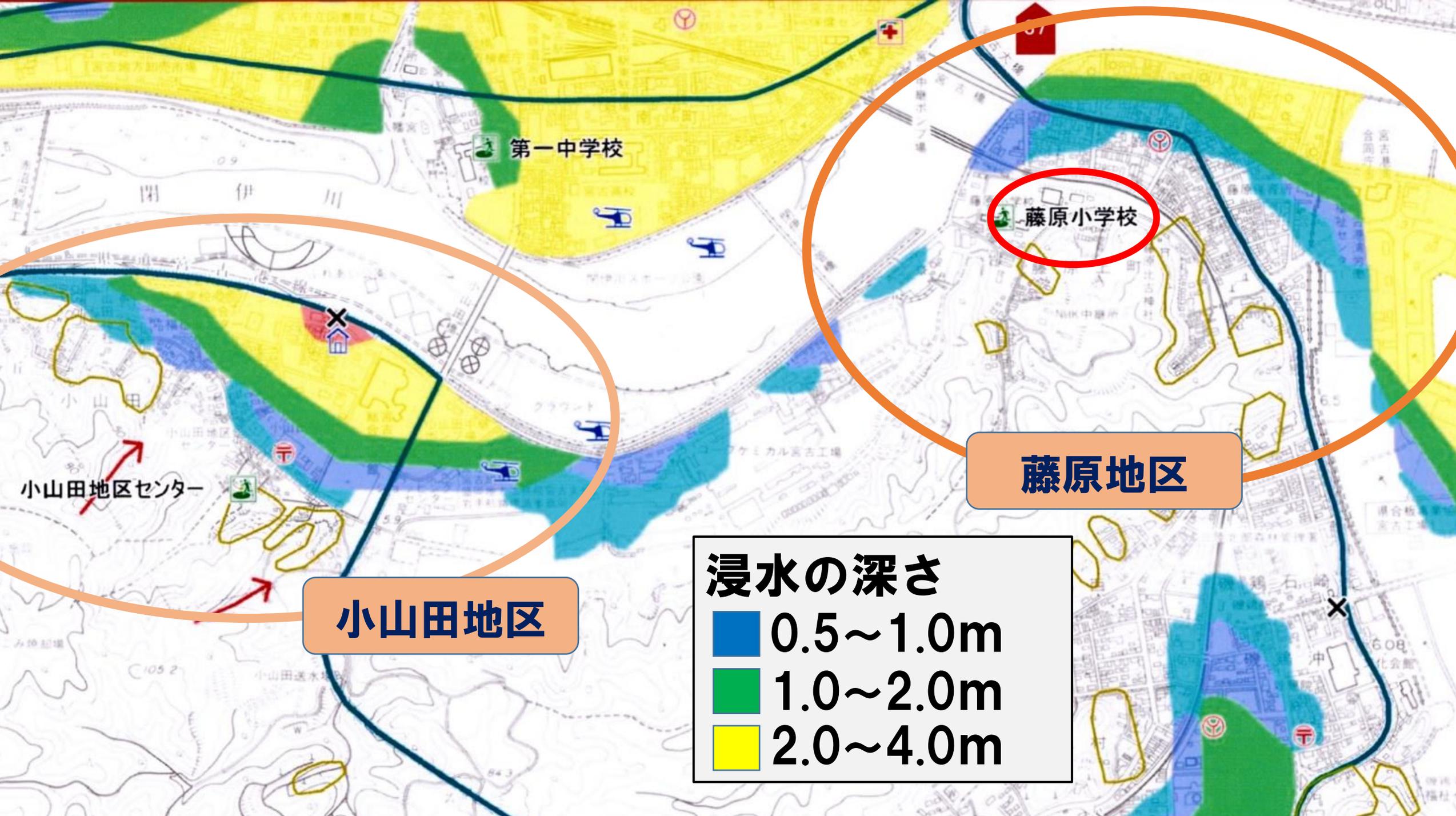
小山田地区センター

小山田高台

11

浸水の深さ

- 0.5~1.0m
- 1.0~2.0m
- 2.0~4.0m



藤原小学校

藤原地区

小山田地区

浸水の深さ

- 0.5~1.0m
- 1.0~2.0m
- 2.0~4.0m

小山田地区センター

第一中学校

東日本大震災（平成23年3月11日）

校庭まで津波到達



台風10号（平成28年8月31日）

大雨による被害を受けやすい



東日本大震災

台風10号による被害



「郷土を愛し復興・発展を支える人づくり」の必要性

『いわての復興教育』⇒「復興・発展を支える人づくり」

「郷土を愛し復興・発展を支える人づくり」

- 自ら震災と向き合う子ども
- 防災や安全について考える子ども
- これからの発展について考える子ども
- 学んだことを後世に語り継ぐ子ども
- 自らのあり方を考える子ども
- 未来の社会をつくろうとする子ども

学校経営の基本方針

●児童一人一人が自ら学び、考え、行動するなどの「生涯教育」の基礎を培う学習の場であるという考えに立ち、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」をバランスよく育み、「生きる力」を身につけるため、全教育活動を通じて展開していく。

郷土を愛し復興・発展を支える人づくり

～「いきる」「かかわる」「そなえる」の実践を通して～

いわての復興教育3つの教育的価値と具体の21項目の重点化

「いきる」
かけがえのない命
心の健康
体の健康

「かかわる」
仲間や地域の人々との
つながり
地域づくり
復旧・復興へのあゆみ

「そなえる」
東日本大震災の様子
と被害の状況
学校・家庭地域での
日頃の備え

教育活動
・各教科、各領域、各教育
・総合的な学習の時間
・道徳教育
・特別活動
・家庭・地域との連携

「いわての復興教育」の展開

「郷土を愛し復興・発展を支える人づくり」の 復興・防災教育

○復興教育

- ・復興教育全体計画・指導計画に基づく実践
- ・総合的な学習による防災学習会
- ・心のサポート教育

○防災教育

- ・地域や家庭と連携した防災活動の実施
- ・小中高連携による防災活動の実施

「防災教育推進事業実践校」

宮古市立藤原小学校

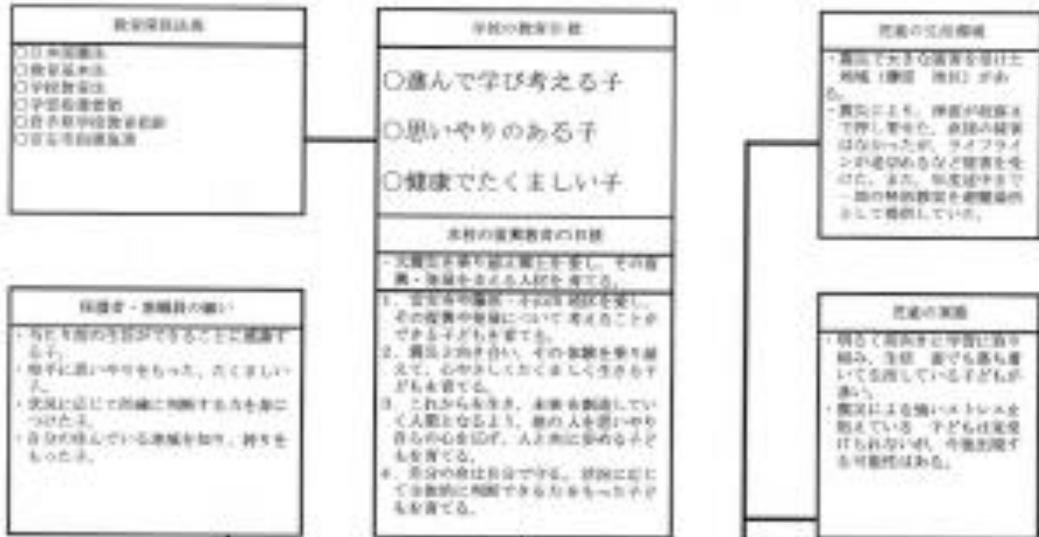
宮古市立河南中学校

岩手県立宮古水産高等学校

- 宮古水産高校の実習船による炊き出し訓練
- 河南中学校との合同避難訓練

復興教育全体計画・復興教育指導計画に基づく実践

復興教育全体計画



「わが町の復興教育」の教育的課題と目指す子ども像

	1 いまを ～生活再建について～	2 大切な ～人々の生活について～	3 未来を ～復興再建について～
教育課題	① かけがえのない命 ② 生活と向き合い ③ 復興ある自分 ④ 夢や希望の大切さ ⑤ やり抜く力 ⑥ 心の健康 ⑦ 心の健康	① 大切な命 ② 家族の絆 ③ 地域や地域の人々とのつながり ④ 復興再建や復興の人々とのつながり ⑤ ボランティア ⑥ 自然と地域社会 ⑦ 復興づくり ⑧ 復興・復興へのあゆみ	① 未来を ② 復興再建の子どもと復興の未来 ③ 自然と復興の未来 ④ 復興再建の未来 ⑤ 自然と復興の未来 ⑥ 復興再建の未来 ⑦ 復興再建の未来 ⑧ 復興再建の未来
1 学年	○基本的な生活習慣を身に付け、進んで学習する。 ○生きることの意義、生活の大切にする心をもつ。 ○運動する喜びを感じる。	○家族と友達などと楽しく遊ぶ。進んで活動や運動ができる。 ○地域の人々との交流を楽しむ。地域から愛おしく見守られていることを感じることのできる。	○自然環境について知るとともに自然環境の恵みに行動できる。
2 学年	○進んで学習に取り組む。継続して学習、定着することができる。 ○自分の考えを伝え、力を支えあうことができる。 ○自分で進んで学習に取り組む。健康で元気に生活を送る。	○仲間と協力する中で、お互いの力を認めあうことができる。 ○地域の復興を人々が守っていることを知り、自分ができることを見つけて実行することができる。	○自然環境の恵みに感謝し行動することができる。
3 学年	○進んで学習するとともに基礎学習にも自主的、積極的に取り組む。 ○生活がけがけのないものであることを知り、自己の考えを尊重する態度を身に付ける。 ○心身を鍛え、進んで健康な生活を送る。	○さまざまな状況の中で、仲間を助けあうことができる。 ○地域の人々が復興に向けて、努力していることを知り、感謝の心をもち行動することができる。	○自然環境の恵みに感謝し行動することができる。

復興教育における学習内容・指導のねらい

主な教育内容	1 【言語的表現】	2 【総合的な学習の時間】	3 【道徳教育】
	・教科のねらい、他教科等との関連を十分に検討した上で、震災に関連する資料や体験を教材とし、言語活動を充実させていく。 ・地域の特色や題材を生かし、地域の文化、地域貢献・復興の活動、復興教育材料等の活用や活用を目的とする。 【例】 復興再建に関する記録、ライフラインの重要性の理解、復興のまちづくり提案など	・知識を習得し、知識を応用することで問題を解決できるように、地域の自然や文化・歴史、教育的資源の活用をする。 ・経験の場として地域のゲストフォーメーションを活用して取り組む活動とし、人々の関わりを大切にしながら、学習を深める。	・第二歩目の体験から学んだことを生かすことで、道徳教育の充実を図る。より一歩の道徳実践の場を創出する。 ・教育活動のプロジェクト制作で『古くは道徳教育資料集2巻目』の例による『被災を乗り越える』等の活動。 【事例】 ～生命の大切さ、友情、助手を愛する心、ボランティアの心、とちへの感謝、家族の絆、思いやり、助け合いなど
	【防災学習】 ・防災学習を実施し、避難に関する正しい知識と実践を身につけた児童を身に付けるよう指導する。	【生活指導・道徳教育・心のケア】 ・児童の心のケア、子どもたちの状況を把握し、必要に応じてサポートを行う。 ・児童と向き合う時間を確保し、心のケアを行う。 ・有事（災害時）の緊急対応を行う。食事・栄養指導、体調管理の徹底、避難生活対策、避難生活指導。 【例】 ～身体の状態、心の健康、「とんせとき」にやってみよう！心とからだの健康観察の実施	【ボランティア教育】 ・活動を通して、子どもたちが自己の存在意義を認め、社会と責任を自覚できるように指導を進める。 【例】 ～社会福祉、自然環境保護、社会、道徳活動、など
	【ボランティア教育】 ・児童が社会力を身に付けていくために必要な学習能力（総合学習力、人生設計力）等を、全教育活動を通じて身に付けさせていく。 【例】 ～復興再建のまちづくり活動、復興のまちづくり活動など	【防災理解教育】 ・復興に向けて進んでいく復興再建の人々に感謝する気持ちを育むことにより、復興のまちづくり活動を進める。 ・積極的に復興に目を向け、ボランティア活動に参加することのできるよう支援する。	【防災教育】 ・自分の命は自分で守ること、状況に応じて主体的に判断できる力を育てていく。 ・人間としての生き方・生き方 ・生命尊重、人と人との関係作り、他者への思いやり、ボランティア精神 ・自然環境の恵みの大切さの理解、地域貢献の意義の理解、防災意識（科学的理解） ・（防災マナー） 【例】 ～災害の発生、今後の防災対策、避難方法、生命尊重の心、など
	【地域との交流】 ・これまでに以上に、学校と地域が一歩上って学校教育に打ち向けることで、子どもたちの教育を豊かに進めていく。 【例】 ～学校行事、避難生活との関係作り、地域貢献など	【復興再建の交流】 ・被災地との交流や学校間の交流を継続・発展させていくことで、子どもたちが互いに心を結びながら復興に向けて歩みを進めていることのできるようになる。 【例】 ～復興再建の学校との交流、など	

第4学年復興教育指導計画

小学校中学年		4年			
月	復興教育関連行事等	教科:単元名 小単元名・時間 ・実施内容	道徳:資料名 価値項目・時間 ・実施内容	特活:活動名・時間 ・実施内容	総合:活動名・時間 ・実施内容
4	集団登校指導 集団下校指導 避難訓練① 安全点検	社:安全な暮らしとまちづくり ・事故が起きた時の対応の仕方や110番のしくみを調べる。 3/10時 ・地震へのそなえを調べる。 9/9時	2 いつかこじをかける 1-2 不機不意、努力 ・自分で立てた目標に向かって、粘り強くやりとげようとする。心情を育てた。	4年生になって ・進級した喜びと希望を話し合い、進んで学習や生活に取り組もうとする態度を育てた。	『うみの町「みやこ」をみつめよう』 1~15/15時 ・宮古湾で捕れる魚の種類や漁獲高、加工の様子等を課題を設定し調べ学習をした。震災前の漁獲高、漁港の様子等を比較したり、復興の様子について調べる。 副P3B
5	交通安全教室	国:調べたことを報告する文を作る。 1~12 ・知りたいことについて必要な事柄を調べ、結果から考えたことを明確にして文書した。		集団下校の安全	
6	グリーン作戦				
7	水泳指導	算:折れ線グラフ 8/8時 折れ線グラフと棒グラフの合わせた読み取り。 ・津波や地震の被害等の統計の読み取った。 国:新聞を作る。 1~5/2時 ・新聞の特徴と作り方を調べる。			
8	避難所キーボックス設置				
9	避難訓練②(津波) スクールガードリーダー訪問	国:調べて発表しよう 3/17時 ・だれもが、かかわり合えるように発表したり工夫したりすることができる。 算:整理の仕方 1/8時 ・資料を整理してみる力をつけた。	15 うめのき村の四人兄弟1~5個性の伸長 ・自分の特徴に気付き、よさをのびそうとする心情を育てることができる。		心とからだの健康観察 副P22
10	津波シェルター訓練 スクールガードリーダー巡回	算:面積のはかり方と表し方 1/4時 ・被害状況の広さについて理解することができる。		生活の反省 ・生活目標の反省をすることにより、今後どのようなことに気を付けていいたらよいか等、自覚し、生活することができる。	

『うみの町「みやこ」をみつめよう』1~15/15時
宮古湾で捕れる魚の種類や漁獲高，加工の様子等を課題に調べ学習をする。震災前の漁獲高や，漁港の様子等を比較したり，復興の様子について調べる。

副 P3B

復興副読本の活用

「いわての復興教育における3つの教育的価値と具体の21項目」の重点化したもの以外の項目について

いきる かかわる そなえる 副読本

低学年		タイトル	ページ数	学年
いきる		かぞくみんなに よろこんでもらったよ!	6,7	1
		「ゆめ先生がつたえたいこと」	8,9	3
		走れ、かまいしキッチンカー	10,11	2
		友だちや家族と遊ぼう	18,19	1・2・3
かかわる		作文 ありがとうおまわりさん	20,21	1
		思いやりの心-友だち交流	22,23	3
		「まけないぞう」がつなぐきずな	26,27	2
		かえてきた「いらっしやいませ」	28,29	3
		作文 今回の震災で感じたこと	30,31	3
		ひさいした犬をセラピードックに育てる-国際セラピードック協会	32,33	3
		今度は自分たちが	34	3
		「ふるさと科」で町を元気に-大槌町の取り組み	35	3
		四つの教え	36,37	2
		防潮堤を見て学ぶ-宮古市田老	38,39	3
		津波を乗り越えて-奥尻島	40,41	2
		「論語」に親しもう	42,43	3
	そなえる		2011(平成23年)年3月11日 東日本大震災	44,45
		岩手の主なさいがい	46,47	1・2・3
		地震のしくみとひがい 津波のしくみとひがい	48,49	1・2・3
		火山ふんかのしくみとひがい	50	1・2・3
		台風のしくみとひがい 急な大雨・かみなり・たつまき	51,52	1・2・3
		大雪とそのひがい	53	1・2・3
		放射線をへらす活動 たらちねの会	54,55	3
		そのとき、どうする?	60,61,62	1・2・3

3つの教育的価値と具体の21項目について、もれや落としのないように、必ず触れるようにするために、一覧表を作成。

総合

朝読書

各教科

特別活動

道徳

次年度へ引き継ぐ
3年間ですべての項目に触れる

復興教育 「いきる」「かかわる」「そなえる」にかかわる指導の実践 総合的な学習の時間「防災学習会」

ライフラインが途絶えた時を想定した非常食(アルファ化米)の炊き出し

6年生が配膳の作業を行い、でき上がったご飯を容器に分けて試食

防災備蓄倉庫の中の見学



「心のサポート」教育

今年度の主な実践

- 毎朝の心とからだ健康チェック
- 家庭教育学級「心と体を整えるヨガ教室」
- 保健体育委員会による心と体のリラクゼーション

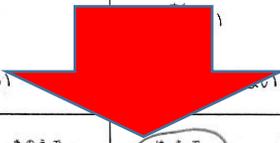
「心のサポート」教育の実践①

毎朝の心と体の健康チェック

☆今日のからだの様子をチェックして、あてはまるところに○をつけてみましょう。

	昨日 (月)	5日 (水)	6日 (木)	7日 (金)
目	・少ない ・食べていない	・少ない ・食べていない	・少ない ・食べていない	・少ない ・食べていない
うんち	・今朝出た ・昨日出た	・今朝出た ・昨日出た	・今朝出た ・昨日出た	・今朝出た ・昨日出た
睡眠	・ぐっすり寝た ・ねむれなかった	・ぐっすり寝た ・ねむれなかった	・ぐっすり寝た ・ねむれなかった	・ぐっすり寝た ・ねむれなかった
つかれ	(○)ない (-)少し (+)多い	(○)ない (-)少し (+)多い	(○)ない (-)少し (+)多い	(○)ない (-)少し (+)多い
イライラ	(○)ない <->少し <~>多い	(○)ない <->少し <~>多い	(○)ない <->少し <~>多い	(○)ない <->少し <~>多い
その他 気になる症状	なし	なし	なし	なし

毎日の心や体の様子をチェック



児童が気づかない心や体の疲れや異常

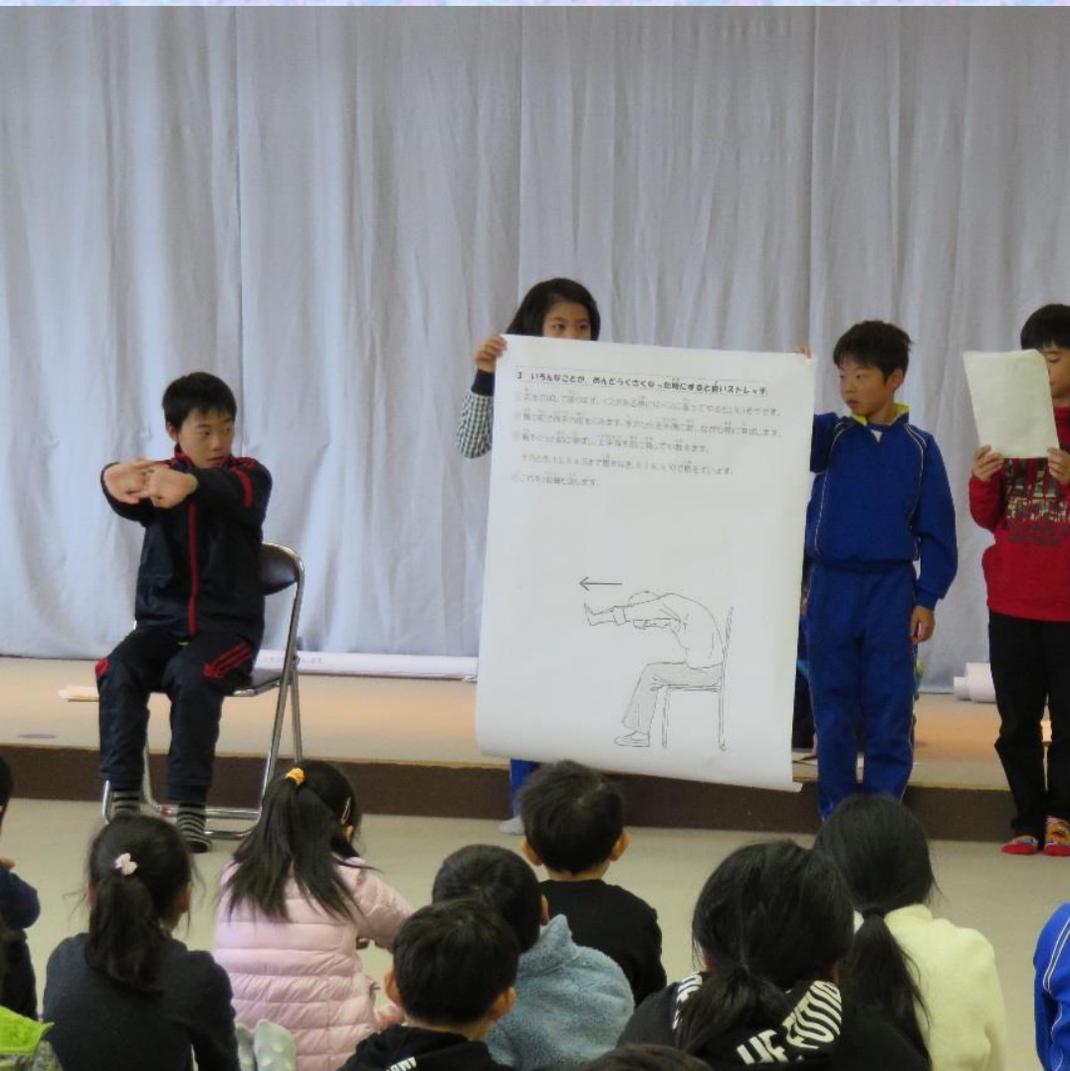
「心のサポート」教育の実践②

家庭教育学級（親子でヨガ教室）



「心のサポート」教育の実践③

心と体のリラクゼーション



防災教育① 地域と連携した児童の安全確保 津波を想定した避難訓練（高台避難訓練）



伊藤牧場跡（学校裏の高台）への避難訓練

地域の方も一緒に避難訓練に参加

防災教育② 家庭と連携した児童の安全確保 「避難マップ」を家庭に配付

藤原地区避難マップ

☆津波注意報・警報 が 発令されたとき

学校の近くにいたとき
伊藤牧場跡へ

藤原2丁目・3丁目 付近に いたとき
比古神社へ

我が家の 避難場所 は

藤原地区指定避難場所

- ◎伊藤牧場跡
- ◎比古神社



毎年、1年生と4年生に配付

4月のPTA総会で説明

自宅の玄関などに置く

いざというときの避難場所を家族で話し合い記入する。

避難訓練のときに話題にし、家族で確認したり校報で確認を呼び掛けたりする。

防災教育③ 地域と連携した児童の安全確保

津波シェルター避難訓練（ラサ工業）



登下校時や放課後等に津波注意報・警報が発令されたときの避難場所へ避難する訓練

歩道橋を境にして、学校からラサ工業のどちらへ避難すればよいか。

小中高連携した防災活動①

宮古水産高校による実習船炊き出し訓練



災害時に実習船を活用して食事や休憩場所を提供できる。

災害により道路が通れない場合でも、船は海上を移動できる。

小中高連携した防災活動②

小中合同避難訓練



登校時に津波注意報
発令を想定し、地域の高
台に避難する。

避難場所では、中学生
がリーダーとなり、反省
会を行う。

成果と課題

成 果

- 復興教育全体計画と年間計画をもとに、計画的に指導を行ったことで、児童の郷土を愛し復興・発展を支えていこうとする態度を育てることができた。
- 実践的な復興・防災教育、避難訓練の充実によって、児童の防災意識を高めることができた。
- 家庭や地域と連携した防災活動を推進することができた。

成果と課題

課題

- 復興教育の取り組み方についてさらなる工夫が必要。
- 小中高連携の取り組みを，次年度以降どのように活用していくか。

ご清聴ありがとうございました

